オーディオ実験室収載

ES-OT4 の効果(1)
—USB-DAC 側への設置(1)—

１．始めに

ステレオ誌 2015 年 1 月号の付録に USB ノイズフィルターES-OT4 が付いてきましたので、現行ラインでの主として DSD 音源再生時における設置効果について調べてみました。なお、ES-OT4 の紹介記事が下記に出ています。

http://stereo.jp/?cat=45

２． USB ノイズフィルターES-OT4 の試聴の方法

PC と micro iDSD の間に 2 本の USB リベラメンテと ES-OT4 を挿入し、バスパワーでの条件に設定します。音源は、512sDSD、256sDSD、128sDSD の各音源を準備し、PC にインストールした HQPlayer Desktop 3 ASIO により DSD Native で micro iDSD に送り出します。比較のために、サンワサプライの USB の A 型⇔B 型変換コネクターも準備しました。

試聴ルート下記のとおりとします。

PC→micro iDSD→DA-3000（44.1 KHz）→MYTEK DIGITAL 192-DSD（DA-3000 よりクロック供給）

ここで、DA-3000 には ABS-7777 から 44.1 KHz のクロックを供給します。PC と micro iDSD の間は下記のように接続します。即ち、①A 型⇔B 型変換コネクター挿入と②ES-OT4 挿入を比較しようとするものです。

①PC→【A 型⇔B 型変換コネクター】→micro iDSD（USB リベラメンテ×2）

②PC→【ES-OT4】→PC（USB リベラメンテ×2）

③PC→micro iDSD（USB リベラメンテ×1）

外付け HDD からの読み出しは USB-W1 で接続し、下記のとおりとします。

Buffalo 製 HD-LSU2D→PC（USB-W1×1）

３．USB ノイズフィルターES-OT4 の試聴結果

当初、上記条件で、②の ES-OT4 挿入では、PC が micro iDSD を認識させるのに手間取りましたが、なんとか再生を始めたところ、512sDSD と 256sDSD の音源ではブツブツノイズが発生しました。128sDSD では小さいブツブツノイズが残りますが、何とか聴ける状態です。そこで 1 本の USB リベラメンテと ES-OT1 を外し、通常聴いている③の USB リベラメンテ 1 本の接続に戻したところ正常な再生が始まりましたので、何回か ES-OT1 有り無しについて聴き比べを行いましたが、ES-OT1 の挿入有りでの顕著な効果があるとは言えない状態でした。さらに、①の 2 本の USB リベラメンテの間に USB の A 型⇔B 型変換コネクターを挿入すると PC が micro iDSD を認識しなくなりました。

そこで、2 本の USB リベラメンテと ES-OT4 を外付け HDD と PC の間に使用してみましたが、ノイズの発生はないので USB リベラメンテのみに由来する問題ではなさそうです。音質的には 2 本の USB リベラメンテと A 型⇔B 型変換コネクター挿入の場合とさほど大きく変わりません。

ステレオ誌の記事では二人の評論家が大きな効果有りと記述されていますが、試聴条件の違いによるものと思われます。同じくステレオ誌の記事では設計製作担当者が効果のある場合もない場合もあると述べています。

ES-OT4 に関するノイズ発生については、USB リベラメンテの問題なのか、HQPlayer の問題なのか、micro iDSD の問題なのか、また、micro iDSD のドライバーソフトは 128sDSD 超えの Native 再生に対応するため、XMOS ドライバーを書き換えた独自のファームウエア―ということですので、そういったこともあって、こういったいくつかの条件の複合作用かもしれません。

４．まとめ

現状では PC と micro iDSD の接続においては USB リベラメンテ 1 本使用で何の不足もありませんが、さらなる音質向上の欲を出して実施した、上記の USB リベラメンテ 2 本の間に ES-OT4 を挿入する試聴条件では、期待していた DSD Native 再生において効果を発揮できませんでした。さらに効果の出る条件の探索を検討していきます。

以上